

□海外文献紹介□

粘膜関連リンパ組織由来の低悪性度胃原発 B 細胞リンパ腫細胞の *Helicobacter pylori* に対する反応

The response of cells from low-grade B-cell gastric lymphomas of mucosa-associated lymphoid tissue to *Helicobacter pylori*: Hussell T, et al (Lancet 342: 571-574, 1993)

Helicobacter pylori 除菌後の粘膜関連リンパ組織由来の低悪性度胃原発 B 細胞リンパ腫の消退

Regression of primary low-grade B-cell lymphomas of mucosa-associated lymphoid tissue type after eradication of *Helicobacter pylori*: Wotherspoon A, et al (Lancet 342: 575-577, 1993)

低悪性度の胃 MALT リンパ腫の *Helicobacter pylori* (HP) に対する免疫学的な反応をみるために、3 例

のリンパ腫瘍細胞を NCTC 11,637 株ならびにリンパ腫を持たない患者から分離した 12 株の HP と混合培養したところ、それぞれ 1 つの菌株について腫瘍性 B 細胞および非腫瘍性 T 細胞の増殖、インターロイキン 2 レセプターの増加がみられ、腫瘍性免疫グロブリン、インターロイキン 2 の分泌増加が認められた。HP は菌株によりゲノム, cytotoxin, 120-130 kDa の抗体など多様性があり、宿主の反応も様でないとされている。またこれらの反応は高悪性度の胃 MALT リンパ腫や他部位の MALT リンパ腫ではみられない。T 細胞を除去したところ腫瘍細胞の増殖が抑えられたことから、HP に対するリンパ腫の反応は HP そのものによるものではなく、T 細胞およびその生成物を介するものと考えられる。

低悪性度の胃 MALT リンパ腫は“反応性”の性格を持っている。HP がその反応を引き起こしているのな

ら、HP の除菌が腫瘍を抑制するだろうとの仮説に基づき、HP 感染を伴った胃 MALT リンパ腫患者(組織学的、分子生物学的に診断)に抗生物質(アンピシリン、メトロニダゾールと亜硝酸ビスマスあるいはオメプラゾール)を投与した。HP を除菌した数か月後に 6 例中 5 例でリンパ腫の消退が認められ、その後も再発がみられなかった。

これらの結果から HP は胃 MALT リンパ腫の発生、増殖に関与すると考えられた。胃 MALT リンパ腫には悪性度が低く長期間進行しない例もあり、手術や化学療法の前に、侵襲がなく安価な HP の除菌を試みるべきと考えられた。

【訳者コメント】 MALT リンパ腫という概念の提唱者である Isaacson らのグループからの問題を提起する論文である。

(関東逋信病院消化器内科

松原 康朗 抄)